

科目	社会あはき学概論	必修	履修学年	3年	授業の方法	講義	時間数	32
目 標	社会における鍼灸師の役割・地域経営・制度化での業務・課題と展望を学ぶ							
内 容								
1 第1章	総論 社会的ニーズとあはき師の役割							
2 第4章	高齢社会におけるあはき師の役割							
3 //	認知症におけるあはき師の役割							
4 //	少子化社会におけるあはき師の役割							
5 //	発達障害におけるあはき師の役割							
6 //	女性の健康管理とあはき師の役割							
7 //	女性のライフステージとあはき師の役割							
8 //	ストレス社会におけるあはき師の役割							
9 //	スポーツ障害におけるあはき師の役割							
10 //	QOLの向上とあはき師の役割							
11 //	人工透析とリンパ浮腫におけるあはき師の役割							
12 第2章	あはき師を取り巻く環境							
13 第3章	地域で期待されるあはき業務							
14 第5章	施術所の経営展開							
15 //	これからの鍼灸師に求められる役割とは							
16 定期試験								
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
社会あはき学(東洋療法学校協会編)の教科書、プリント								
				担当講師	今井 佳江			

科目	医療概論		必修	履修学年	3年	授業の方法	講義	時間数	16
目標	<p>・医療と医学の法律を学び、現代医療への展開を学ぶ。 ・西洋近代医学、東洋医学のそれぞれの倫理観を学び相互に関連し考えることが出来る。 ・医療従事者として要求される倫理について考え方を学び理解する。 ・現代の社会、医療に関わる問題点を検討することが出来る。</p>								
内 容									
1	医学と医療の歴史	西洋・東洋医学の歴史と発展							
2	〃	日本の医学の歴史と発展							
3	現代医療と社会	医療と社会・医療従事者							
4	〃	医療と社会福祉・医療経済							
5	社会保障制度	医療保険のしくみ							
6	〃	公費負担医療・介護サービス行政							
7	医療倫理	医療倫理・施術者としての倫理							
8	定期試験								
評 価									
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>									
教 材									
<p>医療概論 東洋療法学校協会編 配布プリント</p>									
					担当講師	福井 登志子			

科目	関係法規		必修	履修学年	3年	授業の方法	講義	時間数	16
目標	<p>・はり師、きゆう師として業務に従事する上で必要な「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師に関する法律」を理解する。 ・医療従事者として理解しておくべき医療に関する法律、衛生、社会福祉に関する法律、社会保険に関わる法律、制度などを理解する。</p>								
内 容									
1 法とは何か	2 //	3 あはき法	4 //	5 関係法規	6 //	7 //	8 定期試験	<p>法律の基礎・法制定の目的 成文法の種類と優劣を理解する 免許と試験・業務・罰則 学校、養成施設・指定試験機関 医事法規・医療法・その他医療従事者に関する法律 衛生関係法規 医療保障制度</p>	
評 価									
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>									
教 材									
<p>関係法規 東洋療法学校協会編 配布プリント</p>									
					担当講師	福井 登志子			

科目	解剖学各論Ⅱ			必修	履修学年	3年	授業の方法	講義	時間数	64
目標	内分泌系・神経系・感覚器系について学ぶ。 全器官の理解を深める。									
内 容										
1 内分泌系	下垂体前葉の構造	17 神経系	復習							
2 "	下垂体後葉の構造	18 "	大脳の構造							
3 "	松果体の構造	19 "	脳幹の構造							
4 "	甲状腺の構造	20 "	間脳の構造							
5 "	上皮小体の構造	21 "	小脳の構造							
6 "	副腎の構造	22 "	脳室系							
7 "	膵臓の内分泌構造	23 "	脳神経の構造							
8 "	精巣・卵巣の内分泌構造	24 "	脊髄神経の構造							
9 "	ホルモン分泌のメカニズム	25 "	自律神経の構造							
10 神経系	神経系の構成	26 感覚器	目の構造							
11 "	中枢神経の構造	27 "	耳の構造							
12 "	末梢神経の構成	28 "	鼻の構造							
13 "	脊髄の構造	29 全身の運動器	骨格の確認							
14 "	髄膜の構造と脳脊髄液	30 "	骨格筋の確認							
15 総括		31 総括								
16 定期試験		32 定期試験								
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
解剖学 医歯薬出版株式会社										
担当講師						桑原 俊男				

科目	生理学Ⅲ			必修	履修学年	3年	授業の方法	講義	時間数	64
目標	<p>医学は、生理学は、生命現象を基本として、人体の構造と機能について学ぶ学問です。命の維持と健康の増進を目標としています。医療は健康維持の生じた不具合を治ることを目標とする学問です。人体の機能を、血液、呼吸、消化、吸収、代謝、排泄の植物性機能と運動、感覚、神経の動物性機能についてそれぞれ詳しく学ぶことにより、人体の機能を理解していきます。</p>									
内 容										
1 運動	骨格筋の構造と機能	17 生殖	生殖器							
2 //	運動の調節と反射	18 //	受精と発生							
3 循環	動脈・静脈・毛細血管	19 成長と老化	個体の成長							
4 //	肺循環・体循環・冠循環	20 //	加齢変化と更年期障害							
5 呼吸	外呼吸・内呼吸	21 内分泌	ホルモンの種類							
6 //	気管と気管支、肺の構造と機能	22 //	加齢変化							
7 神経	神経細胞	23 //	ホルモン分泌の調節と機能							
8 //	中枢神経と末梢神経	24 内分泌器官	視床下部ホルモン							
9 消化	口腔～食道の構造と機能	25 //	甲状腺ホルモン							
10 感覚	感覚の一般	26 //	副腎皮質ホルモン							
11 //	視覚・聴覚・味覚	27 血液	血液の成分と機能							
12 //	体性感覚	28 体温	体温の調節							
13 栄養	栄養とエネルギー	29 //	体温の産生と放散							
14 代謝	基礎代謝・物質代謝	30 排泄	腎臓の構造と機能							
15 //	糖代謝・脂質代謝・タンパク代謝	31 //	体液の調節と排尿反射							
16 定期試験		32 定期試験								
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
生理学 医歯薬出版株式会社										
担当講師						広瀬 智道				

科目	運動器学		必修	履修学年	3年	授業の方法	講義	時間数	32	
目標	<p>身体の構造や機能を理解し、正常動作、移乗動作について学習する。運動能力を最大限発揮するために必要な知識を身に付け、スポーツ現場、介護現場等でのリハビリテーションや機能訓練に活かす。</p>									
内 容										
1 運動路と感覚路	運動路・感覚路									
2 反射と随意運動	脊髄反射、姿勢反射と立ち直り反射									
3 //	平衡反応、連合反応と共同運動、随意運動									
4 脊柱・体幹の機能	椎骨、椎間板、脊柱の動きと、筋の作用、胸郭の動きと呼吸筋									
5 肩甲帯・肩の機能	肩甲帯・肩の構造、主な筋、回旋筋腱板、肩甲上腕リズム									
6 肘と前腕の機能	肘と前腕の構造、主な筋									
7 手と手指の機能	手関節の骨構造と関節、主な筋、手のアーチ、内在筋、変形									
8 骨盤と股関節の機能	骨盤と股関節の構造、主な筋、股関節の動き、股関節の異常									
9 膝関節の機能	膝関節の構造、主な筋、膝関節の異常									
10 足の機能	足の構造、主な筋、足のアーチと変形									
11 関節と運動	関節運動とてこ空間における関節運動									
12 姿勢とその異常	重心と重心線・異常姿勢									
13 正常歩行と異常歩行	歩行のサイクル、歩行速度とエネルギー消費									
14 //	歩行の分析・異常歩行									
15 総括										
16 定期試験										
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
<p>リハビリテーション医学(医歯薬出版株式会社) 配布資料 【参考文献】リハビリテーション医学(南江堂)</p>										
					担当講師	木村 健太郎				

科目	臨床医学各論Ⅲ			必修	履修学年	3年	授業の方法	講義	時間数	64
目標	<p>循環器疾患、血液・造血器疾患、自己免疫疾患、神経・筋疾患の概念、原因、症状について学習を行う。現代医学における種々の治療法とそれらの目的及び内容などについても学習を行う。鍼灸臨床と関連の深い疾患について取り上げて学習を行う。教科書に記載されている項目だけでなく、最新の知識を幅広く解説する。</p>									
内 容										
1	循環器疾患	総論①	17	自己免疫疾患	総論①					
2	〃	総論②	18	〃	総論②					
3	〃	心臓疾患(心不全・心弁膜症①)	19	〃	関節リウマチ					
4	〃	心臓疾患(心不全・心弁膜症②)	20	〃	全身性エリテマトーデス					
5	〃	冠動脈疾患(狭心症・心筋酵素億)	21	〃	強皮症					
6	〃	動脈疾患(動脈硬化症・大動脈瘤・大動脈解離)	22	〃	ベーチェット病					
7	〃	血圧異常(高血圧)	23	内分泌疾患	総論①					
8	〃	血圧異常(低血圧)	24	〃	総論②					
9	血液・造血	総論①	25	〃	下垂体疾患(クッシング病・尿崩症)					
10	〃	総論②	26	〃	下垂体疾患(下垂体性低身長)					
11	〃	赤血球疾患(鉄欠乏性貧血・悪性貧血)	27	〃	甲状腺疾患(機能亢進症・低下症)					
12	〃	赤血球疾患(再生不良性貧血)	28	〃	甲状腺疾患(橋本病)					
13	〃	白血球疾患(急性白血病)	29	〃	副腎疾患(クッシング症候群・他)					
14	〃	白血球疾患(慢性白血病)	30	〃	副腎疾患(原発性アルドステロン症)					
15	〃	リンパ網内系疾患・出血性素因	31	総括						
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
臨床医学各論(医歯薬出版)										
担当講師						東條 内藤				

科目	臨床医学各論Ⅳ			必修	履修学年	3年	授業の方法	講義	時間数	32
目標	神経・筋疾患の他、鍼灸師として必要と思われる皮膚疾患、耳鼻科疾患、眼科疾患婦人科疾患について学習を行う。それらの原因、症状、診断、治療の概要について学習を行う。また鍼灸師として必要と考えられる麻酔学についても学習する。									
内 容										
1	神経疾患	脳血管疾患								
2	〃	感染性疾患								
3	〃	変性疾患								
4	〃	認知症								
5	〃	筋疾患								
6	〃	末梢神経疾患								
7	皮膚疾患	総論								
8	〃	皮膚炎、湿疹、円形脱毛症								
9	耳鼻科疾患	メニエール病								
10	〃	中耳炎								
11	〃	突発性難聴、副鼻腔炎								
12	眼科疾患	結膜炎、角膜炎								
13	〃	麦粒腫、白内障、緑内障、眼精疲労								
14	一般外科	損傷御概論(熱症・寒症)								
15	〃	外科的感染症、救急処置、心肺蘇生								
16	評価									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
臨床医学各論(医歯薬出版)										
						担当講師	桑原 俊男			

科目	実践臨床医学総論		必修	履修学年	3年	授業の方法	講義	時間数	32	
目標	<p>二年生で学習した臨床医学総論を発展させ、現代医学的な診察方法・診断方法など様々な臨床現場で応用できる実践力を養う。 疾患時に起こる徴候、身体の変化などの仕組みを理解することが出来る。</p>									
内 容										
1 診察の方法	医療面接									
2 //	診察方法(視診・触診・打診・聴診)									
3 //	身体の測定									
4 神経系の診察	反射・脳神経・髄膜刺激症状									
5 バイタルサイン	体温・脈拍・血圧・呼吸									
6 全身の診察	顔貌・精神状態									
7 //	体格・体型									
8 //	体形・栄養状態									
9 //	姿勢・体位・歩行									
10 //	皮膚・粘膜・爪・リンパ節									
11 //	感覚器・頸部・胸部									
12 //	心臓・腹部・背部									
13 運動機能検査	運動麻痺									
14 //	不随意運動									
15 //	関節可動域検査									
16 定期試験										
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
<p>東洋療法学校協会編 臨床医学総論 配布プリント</p>										
					担当講師	福井 登志子				

科目	実践臨床医学各論Ⅰ			必修	履修学年	3年	授業の方法	講義	時間数	32
目標	<p>高齢社会、社会構造の複雑化、生活習慣病の増加などを受け現代の疾病構造は複雑かつ多様化している。慢性疾患に罹患する患者も多くなりいくつもの合併症を伴うことも少なくない。このような状況において医療、医療類似行為に対するニーズも極めて多様化している。西洋医学に頼るだけでなく鍼灸などの東洋医学療法を含め多角的な全人的医療が求められている。本教科ははりきゅう診療を志す諸君に西洋医学、現代医学の観点から臨床医学について、講義解説を行う。医療の基本を身に付けることは、全ての医療従事者にとって必須であり、現場臨床での多様なケースにおいて適切な判断を行うことができるようになることを目標とする。</p>									
内 容										
1 感染症疾患	細菌感染・ウイルス感染									
2 神経・筋疾患	脳、脊髄、ニューロン、機能性									
3 呼吸器疾患	感染性・閉塞性・びまん性肺疾患									
4 循環器疾患	心臓、動脈、血圧									
5 消化器疾患	口腔、食道、肝臓、膵臓、胆嚢、小腸、大腸									
6 泌尿器疾患	糸球体疾患、腎不全、									
7 生殖器疾患	前立腺疾患、女性生殖器疾患									
8 造血器疾患	リンパ網内系疾患									
9 代謝と栄養	糖代謝・脂質異常									
10 自己免疫疾患	膠原病									
11 運動器疾患	後縦靭帯骨化症、分離症、すべり症									
12 //	頸部、腰部変形性脊椎症									
13 //	頸部、腰部変形性狭窄症									
14 皮膚疾患	感染症、創、アトピー									
15 精神、心身医学	統合失調症、摂食障害、他									
16 定期試験										
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
臨床医学各論(医歯薬出版)										
担当講師						東條 内藤				

科目	実践臨床医学各論Ⅱ	必修	履修学年	3年	授業の方法	講義	時間数	32
目標	<p>学問としての臨床医学を学び疾患の理解を深める。演習問題を多数こなし、知識の幅を広げながら実践に活用できるようにする。</p>							
内 容								
<p>1 総論 猩紅熱 百日咳 ジフテリア 2 麻疹 風疹 流行性耳下腺炎 3 梅毒 淋病 性器クラミジア 4 演習問題(感染症) 5 演習問題(神経・筋疾患) 6 演習問題(呼吸器疾患) 7 演習問題(循環器疾患) 8 演習問題(消化器疾患) 9 演習問題(泌尿・生殖器疾患) 10 演習問題(血液・造血疾患) 11 演習問題(代謝・栄養疾患) 12 演習問題(内分泌疾患) 13 演習問題(運動器疾患) 14 演習問題(皮膚・頭頸部疾患) 15 演習問題(精神・心身医学的疾患) 16 定期試験</p>								
評 価								
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>								
教 材								
臨床医学各論(医歯薬出版)								
				担当講師	東條 内藤			

科目	分野別経絡経穴概論		必修	履修学年	3年	授業の方法	講義	時間数	32	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・14経脈の流注と経穴を覚え、臨床に応用する。 ・経脈の病証を覚える。 ・要穴を覚え臨床に応用する。 ・筋肉上の経穴を覚え臨床に役立てる。 									
内 容										
1	流注と経穴	手の太陰肺経								
2	〃	手の陽明大腸経								
3	〃	足の陽明胃経								
4	〃	足の太陰脾経								
5	〃	手の少陰心経								
6	〃	手の太陽小腸経								
7	〃	足の太陽膀胱経								
8	〃	足の少陰腎経								
9	〃	手の厥陰心包経								
10	〃	手の少陽三焦経								
11	〃	足の少陽胆経								
12	〃	足の厥陰肝経								
13	〃	督脈・任脈								
14	骨度法	骨度法								
15	要穴の概略	五俞穴・五要穴・四総穴・八会穴・下合穴								
16	定期試験									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
経絡経穴概論 東洋療法学校協会編 配布プリント										
					担当講師	福井 登志子				

科目	東洋医学概論応用		必修	履修学年	3年	授業の方法	講義	時間数	32	
目標	中華思想を理解し、患者の訴える症状のみならず、主訴につながったであろう根本的な原因を探り出し、治療で来るよう、問診、触診等の情報から患者の身体状態を総合的に判断できるようになる。									
内 容										
1	東洋医学の特徴	東洋医学の成り立ち・古代九鍼								
2	生理と病理	気血津液、神の概念								
3	〃	蔵象								
4	〃	経絡								
5	〃	病因病機								
6	東洋医学の思想	陰陽論、五行論								
7	〃	五行色体								
8	四診	望診、聞診								
9	〃	問診、切診								
10	弁証	八綱、気血津液、臓腑								
11	〃	経絡、六淫、六経								
12	論治	治療法の概要								
13	〃	治則、治法								
14	弁証を進め方	弁証の手順								
15	総括									
16	定期試験									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
新版 東洋医学概論 (医道の日本社) 配布資料 【参考図書】 鍼灸学(基礎編) (東洋学術出版社)										
					担当講師	木村 健太郎				

科目	実践東洋医学臨床論			必修	履修学年	3年	授業の方法	講義	時間数	64
目標	<ul style="list-style-type: none"> 臨床の現場で即活用できるよう、2年次に学習した東洋医学臨床論を発展させより深く学習する。 症候の現代的考え方、東洋的な考え方を踏ま治療方針、処方例を検討することが出来る。 様々な年齢や症例に対応できるよう考え方を学び、臨床実習に生かす。 									
内 容										
1 症候別鍼灸治療	頭痛	17 症候別鍼灸治療	運動麻痺							
2 //	顔面麻痺・顔面痛	18 //	高血圧・低血圧							
3 //	歯痛・眼精疲労	19 //	食欲不振							
4 //	鼻閉・鼻汁	20 //	肥満							
5 //	脱毛症	21 //	発熱・のぼせ・冷え							
6 //	めまい	22 //	不眠							
7 //	耳鳴り・難聴	23 //	疲労・倦怠							
8 //	咳嗽・喘息	24 //	発疹							
9 //	胸痛	25 //	頸肩腕痛							
10 //	腹痛	26 //	肩こり							
11 //	悪心・嘔吐	27 //	肩関節痛							
12 //	便秘・下痢	28 //	腰下肢痛							
13 //	月経異常	29 //	膝痛							
14 //	排尿障害	30 年齢別鍼灸治療	小児への治療							
15 //	インポテンツ	31 //	高齢者への治療							
16 定期試験		32 定期試験								
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
東洋医学臨床論 〈はりきゆう編〉 配布プリント										
担当講師						福井 登志子				

科目	実践経営学		必修	履修学年	3年	授業の方法	講義	時間数	32	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・施術所開設に必要な法律を学ぶ。 ・開設前にすること(資金調達、開設場所、リスク管理対策等)を学ぶ。 ・開業後にすること(行政手続き、記録管理等)を学ぶ。 									
内 容										
1 関係法規	施設設備									
2 //	消毒設備									
3 業務形態の決定	資金									
4 //	資金の使途									
5 広報・宣伝	看板の掲示									
6 //	新聞の利用									
7 //	広告									
8 //	その他									
9 施術に伴うリスク管	危機管理の必要性									
10 行政手続き	業務開始日									
11 //	個人事業の開廃業等手届出手続き									
12 //	青色申告承認申請手続き									
13 財務・記録管理	診療記録簿(カルテ)									
14 //	日報									
15 自賠償保険										
16 評価										
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
関係法規・社会あはき学 (医道の日本社)										
					担当講師	専任教員				

科目	はりきゅう実技臨床 I			必修	履修学年	3年	授業の方法	実技	時間数	64
目標	各運動器疾患の原因となっている筋に対して、体表から筋肉を触察し、目的の筋に正しく刺激ができるよう技術を身に着ける。									
内 容										
1 骨の触察	肩甲骨、鎖骨の触察	17 筋の触察	大腿筋膜張筋の確認、縫工筋							
2 筋の触察	胸鎖乳突筋、斜角筋群	18 "	大腿四頭筋							
3 "	僧帽筋	19 "	ハムストリングス							
4 "	棘上筋、棘下筋、小円筋	20 "	薄筋、長・大内転筋							
5 "	大円筋、広背筋	21 "	大腿部の復習							
6 "	前鋸筋の確認、肩甲下筋	22 "	前脛骨筋、長趾伸筋							
7 "	三角筋	23 "	腓骨筋群							
8 "	上腕三頭筋	24 "	下腿三頭筋							
9 "	上腕筋、上腕二頭筋	25 "	下腿の復習							
10 "	上腕部の復習	26 "	脊柱起立筋群							
11 "	腕橈骨筋、長・短橈側手根伸筋	27 "	腰方形筋							
12 "	指伸筋、尺側手根伸筋、肘筋	28 "	全身の復習①							
13 "	円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋	29 "	全身の復習②							
14 "	前腕部の復習	30 "	全身の復習③							
15 総括		31 総括								
16 実技試験		32 実技試験								
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
配布資料 【参考図書】 初めてのトリガーポイント鍼治療（医道の日本社） ビジュアルでわかるトリガーポイント治療（緑書房）										
担当講師						木村 健太郎				

科目	はりきゅう実技臨床Ⅱ			必修	履修学年	3年	授業の方法	実技	時間数	64	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療面接の意義を理解する。 ・徒手検査の意義を理解し、適切な方法で検査法を行い病態把握に使うことができる。 ・カルテの意義を理解する。 ・適切な医療面接と検査法から患者の病態を把握し、治療方針と治療計画を立て、安全な施術をすることができる。 ・患者に対しインフォームドコンセントを行い、わかりやすい言葉で病態を伝えられる。 ・現代医学的、東洋医学的双方の考え方を理解し病態把握を導き出せる。 										
内 容											
1 医療面接	医療面接の意義	17 医療面接から治療	腰痛の医療面接	2 〃	医療面接の方法・技術	18 〃	腰痛の治療	3 〃	患者を想定してのロールプレイ	19 〃	腰痛の評価
4 カルテ	カルテの意義	20 〃	膝関節痛の医療面接	5 〃	カルテの書き方	21 〃	膝関節痛の治療	6 〃	カルテ記載の実際	22 〃	膝関節痛の評価
7 医療面接から治療	頸部痛の医療面接	23 臨床の実際	症例検討①	8 〃	頸部痛の治療	24 〃	症例検討②	9 〃	頸部痛の評価	25 〃	症例検討③
10 〃	胸郭出口症候群の医療面接	26 〃	症例検討④	11 〃	胸郭出口症候群の治療	27 〃	症例検討⑤	12 〃	胸郭出口症候群の評価	28 〃	症例検討⑥
13 〃	肩関節の医療面接	29 〃	症例検討⑦	14 〃	肩関節の治療	30 〃	症例検討⑧	15 〃	肩関節の評価	31 総括	
16 実技試験		32 実技試験									
評 価											
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>											
教 材											
臨床医学総論、経絡経穴概論、東洋医学概論、東洋医学臨床論（東洋療法学校協会編） 配布プリント											
担当講師						福井 登志子					

科目	臨床実習	必修	履修学年	3年	授業の方法	実習	時間数	92
目標	1. 2年時で学習してきた内容が現場でどのように生きるかを学ぶ。指導教員の指導の下、計画表に沿って鍼灸治療ができるようになる。臨床上必要なもの（カルテの記載方法、評価方法、接遇、身だしなみ）を身に付ける。							
内 容								
1 外来患者に対するの施術	28 外来患者に対するの施術							
2 外来患者に対するの施術	29 外来患者に対するの施術							
3 外来患者に対するの施術	30 外来患者に対するの施術							
4 外来患者に対するの施術	31 外来患者に対するの施術							
5 外来患者に対するの施術	32 外来患者に対するの施術							
6 外来患者に対するの施術	33 外来患者に対するの施術							
7 外来患者に対するの施術	34 外来患者に対するの施術							
8 外来患者に対するの施術	35 外来患者に対するの施術							
9 外来患者に対するの施術	36 外来患者に対するの施術							
10 外来患者に対するの施術	37 外来患者に対するの施術							
11 外来患者に対するの施術	38 外来患者に対するの施術							
12 外来患者に対するの施術	39 外来患者に対するの施術							
13 外来患者に対するの施術	40 外来患者に対するの施術							
14 外来患者に対するの施術	41 外来患者に対するの施術							
15 外来患者に対するの施術	42 外来患者に対するの施術							
16 外来患者に対するの施術	43 外来患者に対するの施術							
17 外来患者に対するの施術	44 外来患者に対するの施術							
18 外来患者に対するの施術	45 外来患者に対するの施術							
19 外来患者に対するの施術	46 評価							
20 外来患者に対するの施術								
21 外来患者に対するの施術								
22 外来患者に対するの施術								
23 外来患者に対するの施術								
24 外来患者に対するの施術								
25 外来患者に対するの施術								
26 外来患者に対するの施術								
27 外来患者に対するの施術								
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
				担当講師	今井 鎌田 木村			